

帯広畜産大学原虫病研究センター共同研究報告書

令和3年5月28日

採択番号	2020-共同-20		
研究部門	診断治療研究部門	原虫病研究センター 内共同研究担当教員	菅沼 啓輔
研究課題名	International collaborative research on the diagnosis of Dourine between the NRCPD and HVRI OIE reference laboratories		
研究代表者	(ふりがな) 氏 名	所属部局等・職名	
	Zhe Hu	Harbin Veterinary Research Institute, CAAS	
研究分担者	Cheng Du	Harbin Veterinary Research Institute, CAAS	
	すがぬま けいすけ 菅沼 啓輔	帯広畜産大学原虫病研究センター・先端予防治療学分野・助教	
研究期間	2020年4月1日～2021年3月31日		
目的・趣旨	研究代表者の所属する研究室はウマ伝染性貧血の OIE リファレンスラボラトリーであり、当該疾病以外にも多数のウマ疾病の制御を研究目的としている。原虫研先端予防治療学分野ではウマトリパノソーマ症の診断法の確立と評価を行っている。そこで本研究では、原虫研で確立したウマトリパノソーマ症の診断法の技術移転と中国におけるウマトリパノソーマ症の疫学調査を行うことを目的とした。		
研究経過の概要	COVID-19 の蔓延により研究代表者の研究活動が困難であった。研究代表者の研究再開後のすみやかな実験開始にそなえ、研究分担者は診断用抗原および標準 DNA の材料となるトリパノソーマの培養維持に努めた。		
研究成果の概要	関連研究の成果として、ウマトリパノソーマ症治療法の確立を目的として、モンゴルにおいて瘧疾罹患馬に対するジミナゼンとキナピラミンの混合療法の効果を検討した。ここ得られた成果を、次年度の共同研究事業において活用する予定でいる。		
研究成果の発表	Davkharbayar et al., Treatment efficiency of combination therapy with diminazene aceturate and quinapyramine sulfate in a horse with dourine, Journal of Equine Veterinary Science, 2020, 87, 10295		